

論文番号 195

担当

独立行政法人 酒類総合研究所

題名 (原題/訳)

Epidemiological studies of tobacco smoking and dependence in Japan

日本における喫煙者と依存症の疫学的研究

執筆者

Hashimoto, E., Sakaguchi, S., Shiga, M., Ikeda, N., Toki, S., Saito, T.

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Alcohol, 24(2)107-10 (2001)

キーワード

たばこ、ニコチン、アルコール、IVD-10, DSM-IV

要旨

本研究ではアルコール依存症、たばこ、ニコチン依存症との関係を明らかにするため、現在の日本における喫煙者においてたばこやニコチン依存性の罹患率を調査した。対象者は 246 人のアルコール依存症患者と 1,111 人の非アルコール依存症の人たちである。質問票は WHO の ICD-10、アメリカ精神協会診断、精神障害統計マニュアル (DSM-IV) を用いた。ICD-10 基準によると、調べた対象者のなかで、たばこ依存症の罹患率は 23.9% である。たばこ依存症患者の割合は全く酒を飲まない人、通常程度に酒を飲む人 (12.8%) よりもアルコール依存症の人でより高くなった (58.1%)。アルコール依存症患者は全く酒を飲まない人、通常程度に酒を飲む人に比べると、一日のニコチン消費量が有意に多い。DSM-IV 基準によるとニコチンを絶つことによるニコチンの肉体的依存性を示す割合はアルコール依存症患者で 2.4% で、全く酒を飲まない人、通常程度に酒を飲む人ではわずか 0.3% のみであった。これらの結果は潜在的にニコチン依存症を示す人は、現在の通常の喫煙者の中で報告されているほどは強いものではないことを示している。